

自己評価報告書

平成23年 4月 1日現在

機関番号：64303

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2008～2012

課題番号：20519003

研究課題名(和文) ボルネオ島中央部における生態資源に関する民俗知識のネットワーク

研究課題名(英文) Network of local knowledge regarding ecological resources
in the central part of Borneo

研究代表者

小泉 都 (KOIZUMI MIYAKO)

総合地球環境学研究所・研究部・プロジェクト研究員

研究者番号：00506884

研究分野：民族生物学

科研費の分科・細目：人文学・地域研究

キーワード：ボルネオ、民族生物学

1. 研究計画の概要

生業体系や社会構造が異なる民族が共存するボルネオ島の中央部において、生態資源に関する知識の集団内・集団間のネットワークのあり方を研究するとともにそのネットワークが近年の社会変容からどのような影響を受けているのかを明らかにする。

2. 研究の進捗状況

現地調査として複数の村落に滞在し、観察や聞き取りによりデータを収集した。調査地(調査民族)は、以下の通りである：インドネシア・東カリマンタン州(Uma Alim, Penan Benalui, Punan Sekatak)；マレーシア・サラワク州(Eastern Penan, Cebop)。

また、民俗知の対象植物を採集して、ポゴール、クチン、ライデン、キュー、京都大学の植物標本庫を利用しながら同定した。

これまでに得られた主要な知見を以下にまとめる。

(1) 狩猟採集民、農耕民ともに、森林が残る地域では、狩猟、森林の小川での魚毒漁、果物の採集、ラタン採集、建築用木材の切り出し、薪採集(二次林)、沈香採集などに森林をよく利用していた。木材伐採が進んだ地域では森林利用が少ない。

(2) 食用果物や建材は、民族間で利用植物群がよく似ていた。薬用植物はかなり異なっていた。

(3) どの民族についても、定型的な知識伝達の方法はみられなかった。聞き取りからは、個人の興味や活動が知識の習得に大きく影響している様子が示唆された。日常的な狩猟

採集のほか、現金収入源となる資源の長期採集行も、学習の機会となっていた。

(4) 狩猟採集民は、多くの人が近隣の農耕民の少数民族の言葉を話すことができる。民話や植物利用を含めて様々な情報を農耕民から得ていた。一方、農耕民で狩猟採集民の言葉を理解できる人はごく少数である。民俗知の集団間の交流は、農耕民から狩猟採集民へとという方向が優勢だった可能性が高い。

(5) 1970年代を中心に進んだ狩猟採集民の定住化、1980年代以降の森林開発や現金経済の浸透が、個人や集落の森林利用に大きく影響している。またマレーシア・サラワク州では、小学校から寄宿生活が基本となっており、学校教育の浸透も今後大きく影響してくると考えられる。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している

(理由)

調査許可等で問題が起こらなかったため、おおむね順調に現地調査を行えた。

4. 今後の研究の推進方策

査読付きの論文の投稿準備をすすめ、適切な学術雑誌に投稿したい。

植物の同定はほぼ終わっているが、同定に問題が残る植物も一部あり、23年度の研究で同定に最善をつくしたい。

ひとまず現地調査は終了したが、調査地域では社会環境・自然環境の変化が激しいため、時間が許せば調査地を再訪して現状を観察したい。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計1件)

- ① 小泉都、生物多様性の保全を地域社会の生活基盤の保全に結びつける—ボルネオの森林開発と地域社会、社会と倫理、第24号、17—30、2010、査読無

[学会発表] (計5件)

- ① 小泉都、インドネシアでの民族植物学調査、日本植物学会第74回大会、2010年9月9日、中部大学
- ② 小泉都、生物多様性条約の目的を実現するために地域社会を理解する—ボルネオの狩猟採集民の生活と文化の現実、シンポジウム・誰が環境問題について考えるのか—環境政策における地域レベルの視点と取り組みの重要性、2010年5月29日、南山大学
- ③ Koizumi, Miyako、The objective and methodology of natural science and its limitations in dealing with environmental problems、International Conference ‘Changing nature of nature: New perspectives from transdisciplinary field science’、2009年12月17日、京都大学
- ④ Koizumi, Miyako、The Convention on Biological Diversity and Hunter-gatherers of Borneo、Exchange Lecture by Japanese Anthropologist on Nature and Society in Southeast Asia、2009年9月28日、マレーシア大学サバ校
- ⑤ Koizumi, Miyako、Difficulties in applying the Convention on Biological Diversity to protect local knowledge and life in the humid tropics、International Conference ‘International environmental treaties: their role, possibilities, risks and limitations’、2009年9月16日、南山大学

[図書] (計2件)

- ① 小泉都・市川昌弘、弘文堂、「熱帯林における先住民の知識と制度：その喪失・変容過程と社会構造」総合地球環境学研究所編『地球環境学事典』、2010、306—307
- ② 小泉都・服部志帆、人文書院、「生物多様性条約の現状における問題点と可能性—ボルネオ島の狩猟採集民の生活・文化の現実から」市川昌広、生方史数、内藤大輔編『熱帯アジアの人々と森林管理制度—現場からのガバナンス論』、2010、222—242